

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】 第 7 部門第 2 区分
 【発行日】 平成 19 年 3 月 15 日 (2007.3.15)

【公開番号】 特開 2006-59928 (P2006-59928A)
 【公開日】 平成 18 年 3 月 2 日 (2006.3.2)
 【年通号数】 公開・登録公報 2006-009
 【出願番号】 特願 2004-238690 (P2004-238690)
 【国際特許分類】

H 0 5 K 1/02 (2006.01)

【F I】

H 0 5 K 1/02 J

【手続補正書】
 【提出日】 平成 19 年 1 月 31 日 (2007.1.31)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】 明細書
 【補正対象項目名】 0 0 2 7
 【補正方法】 変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 7】

ランド 1 2 と幅狭部 1 5 a 又は 1 6 a との間隔を 0. 2 5 mm としているのは、ソルダレジスト 1 4 (開口部 1 4 a) の形成誤差 (印刷ズレの最大値) が 0. 1 5 mm 程度であるため、ランド 1 2 (レジスト開口部 1 4 a) と配線パターン 1 5 a・1 6 a を近づけすぎると、配線パターン 1 5 a・1 6 a に開口部 1 4 a がかかってしまう (開口部 1 4 a がかかるということはソルダレジスト 1 4 が塗布されないことを意味し、配線パターンに半田が付着して意図しない短絡を生じてしまう) おそれがあるためであり、本実施例では、開口部 1 4 a とランド 1 2 との間隔を 0. 0 5 mm としているため、ランド 1 2 と幅狭部 1 5 a 又は 1 6 a との間隔を 0. 2 5 mm とすることで、開口部 1 4 a と配線パターン 1 5 a・1 6 a との間隔は 0. 2 mm となり、前記形成誤差 0. 1 5 mm 以上の距離が担保されるものである。幅狭部 1 5 a と 1 6 a との間隔を 0. 2 mm としているのは、0. 2 mm 以下とすると隣り合った配線パターンがつながるおそれと、ソルダレジスト 1 4 が塗布されにくくなるおそれがあるためである。